



NEWSLETTER No.44

Organic Geochemistry

The Japanese Association of Organic Geochemists

日本有機地球化学会

2007.2.14

Report

第24回有機地球化学シンポジウム(2006年松本シンポジウム) 開催される

第24回有機地球化学シンポジウム(2006年松本シンポジウム)は2006年8月3~4日かけて信州大学旭キャンパス(松本市)理学部C棟にて開催されました。参加者数73名(学生・院生24名)口頭発表件数31件、ポスター発表件数19件でした。参加者が70名を超えたのは2000年のシンポジウム以来で参加者の多いシンポジウムとなりました。世話人をしていただいた福島和夫前会長ほか信州大学の方々にあらためて御礼を申し上げます。



2006年8月3日 信州大学理学部 前にて



会場風景



懇親会風景



2006 年度有機地球化学会 学術賞、研究奨励賞(田口賞) 受賞者決まる



2006 年度有機地球化学賞（学術賞）は、選考委員会で審議された後、8月2日の運営委員会で平井明夫会員に贈ることが承認されました。そして翌日開催された 2006 年度総会后に表彰式が行われ、賞状と記念メダルが福島会長から平井会員に授与されました。おめでとうございます。

有機地球化学賞（学術賞）第7号

平井 明夫 会員

受賞研究「根源岩の熟成度評価法の確立と本邦における石油システムに関する研究」



推薦理由

最近の石油探鉱は続成作用後期成因説、いわゆる「ケロジェン」根源説に立脚して行われるが、これを有機地球化学的に検証する技術として石油根源岩の評価・分析がある。今ではルーチンワークとして定着している根源岩分析技術は、昭和 50 年代初頭に石油開発公団（現、石油天然ガス・金属鉱物資源機構）石油開発技術センターの地質・探鉱分科会を中心に、東京大学、石油資源開発(株)および帝国石油(株)の有機地球化

学研究メンバーによる共同研究体制で我が国に導入された。

平井明夫会員は、共同研究の主要テーマであった「石油根源岩の有機物熟成度評価法の確立」を担当し、外国文献では詳細がわからなかった石炭組織学的な手法である、ビトリナイト反射率測定法を装置の導入から測定技術の確立まで成し遂げた。日本の油田地帯で実測されたビトリナイト反射率から明らかになった石油生成帯の深度は、それ以前の想定よりもはるかに深くなり、試掘候補地の選定にも影響するほどに画期的な業績であった。

また、原油および根源岩抽出物のガスクロマトグラフィーが普及するのにもとない、ノルマルアルカン・イソアルカン組成により秋田地域に産出する原油の検討を行い、八橋油田における油の根源岩と石油の生成・移動・集積を明らかにした。さらに、膨大な根源岩データを解析して新潟堆積盆地における石油根源岩を、寺泊層および七谷層の特定の層準に絞り込むとともに、根源岩および産出原油のバイオマーカー分析に基づいて原油を新津型および頸城型の2つのタイプに分類した。そして、それぞれのタイプの原油を生成した根源岩の分布域を示して、新潟堆積盆地における石油システムの全容を明らかにした。

以上のように平井明夫会員は、日本の石油有機地球化学および石油探鉱技術の発展に大いに貢献しておられることから、有機地球化学賞（学術賞）第7号受賞者に推薦した。

（有機地球化学賞（学術賞）選考委員会）

2006 年度研究奨励賞（田口賞）は、選考委員会で審議された後、メールにて開催された運営委員会で力石嘉人会員に贈ることが承認されました。そして 2006 年度総会の席で表彰式が行われ、賞状と副賞 5 万円が福島会長から力石会員に授与されました。おめでとうございます。

研究奨励賞(田口賞)第9号

力石 嘉人 会員

受賞研究「植物脂質化合物の炭素-水素同位体比同時解析とその堆積物バイオマーカーへの応用」



推薦理由

力石嘉人会員は、堆積有機化合物中に含まれるバイオマーカーの起源および地球化学サイクルを解明することを目的に、植物脂質化合物の分子レベルでの安定炭素-水素同位体比の同時解析を世界で初めて行っている。その結果、 C_3 、 C_4 、CAM植物に存在するバイオマーカーについて、同じ分子でも同位体分別に系統的な差がみられることを見出した。また、同じ植物に含まれる脂質分子が、幅広い同位体分布を持つことを示し、このような分布は、脂質分子の生合成

メカニズムの違いを反映していることを明らかにした。さらに力石会員は、開発した炭素-水素同位体比二次元解析法を湖沼堆積物、土壌、河川-海洋堆積物に適用し、従来、炭素同位体比のみで議論されてきた堆積有機分子の起源・輸送などに関わる研究に新しい展開をもたらした。

力石会員は、これらの結果を10編の原著論文に第一著者として発表しており、その原著論文中、9編は定評ある国際英文誌である。またその成果は、外国の研究者によっても多く引用されている。

以上のことから、力石嘉人会員を研究奨励賞（田口賞）第9号に推薦した。

（日本有機地球化学会研究奨励賞（田口賞）選考委員会）

有機地球化学シンポジウム(2006年松本シンポジウム)のポスター賞は、

名古屋大学 塚崎あゆみ氏が受賞されました。

受賞研究「海洋表層懸濁態有機物の化学的特性に関する研究—アミノ酸含有複合糖質について—」

2006年度 日本有機地球化学会運営委員会報告

1. 日時:平成18年8月2日(水)17:00~19:00
2. 場所:信州大学理学部A棟1F「交流サロン」
3. 出席者:福島和夫会長、武田信従副会長
運営委員:田上英一郎、鈴木徳行(前事務局長)、奈良岡浩、三瓶良和、荻原成騎、金子信行、奥井明彦(以上3名は現事務局)
欠席者:氏家良博、村江達士、山本正伸、河村公隆、高田秀重(敬称略)

4. 議事内容

[1]事業全般について

1)2005年度事業・会計報告

資料に沿って鈴木前事務局長から報告があった。質疑応答を行い、以下の点を確認し修正の上、総会に提案することを多数の賛成により承認した。

- ・新会員システム関係の支出は、翌年度分の前払いが入っているため高くなっている。
- ・送料支出にはニューキャッスル大学にROGを送った費用が入っている。
- ・事務局移転の関係で、一部、2005年度最後

の支出よりも、2006年度最初の支出が前になっているため、特別措置として会計年度を12月31日までとせず1月までとする。

事業報告〔総会記事参照〕

総会提案の最終案〔総会記事参照〕

2005年度会計監査報告〔総会記事参照〕

2) 2006年度事業・会計中間報告

資料に沿って事務局から報告があった。質疑応答を行い、以下の点を確認し修正の上、総会に提案することを多数の賛成により承認した。

- ・今までシンポジウム予算は学会本体の予算と切り離して処理し引き継いで来た。しかし今後は一般会計の一環として毎年度処理することにする。このため、昨年度の高知シンポジウムまで引き継がれて来た繰越金を「高知シンポ世話人寄付」として「今後の計画」に編入する。

- ・またシンポジウムの企業協賛金は、一般会計の一環として処理することにする。このため「今後の計画」のうち、収入に「松本シンポ協賛金」、支出に同額の「シンポジウム予備費」という項目を設ける。
- ・HP オンライン化維持費は前年度の実績をベースに計上したが、翌年度の前払い分が含まれていたため、実際は 50,000 円で充当できると考えられる。
- ・事務局が分散運営となったことから、人件費など事務局経費 30,000 円を追加計上すべきである。

事業報告：上期実績〔総会記事参照〕

総会提案の最終案：上期実績〔総会記事参照〕

事業計画：下期〔総会記事参照〕

総会提案の最終案：下期計画〔総会記事参照〕

3) 2007 年度事業・会計計画

資料に沿って事務局から報告があった。質疑応答を行い、以下の点を確認し修正の上、総会に提案することを多数の賛成により承認した。

- ・2006 年度会計の今後の計画と同様の考え方で、1) 収入に「シンポジウム協賛金」および支出に「シンポジウム予備費」、2) 「事務局経費」30,000 円、を設ける。
- ・同様に「HP オンライン化維持費」を 50,000 円とする。
- ・田口基金を 10 年間運用した結果、相当の利子収入が見込まれる（運用を提案した旧事務局の産総研に大変感謝します）。

事業計画〔総会記事参照〕

総会提案の最終案〔総会報告参照〕

4) 来年度のシンポジウム開催場所

来年度のシンポジウム開催場所について事務局から報告があった。金沢大学の長谷川卓会員が受け入れを表明されていることから、来年度は金沢大学にお願いすることになった。

2008 年度には東京大学に可能性があるとのこと。首都圏であれば最近会員が増えてい

る JAMSTEC にもお願いできるのではないかとの話があったが、キーパーソンが会員であった方がよいとの意見が出た。今後、相談してみるようになった。

2009 年度については、岡山大学の奈良岡会員が受け入れ可能とのことであった。

5) 会員の現況

資料に沿って事務局から報告があった。賛助会員については、各社の事情があるので、今回のように事実を確認の上、退会を認めざるを得ないとの結論になった。また今後とも賛助会員を増やす努力を継続することを確認した。

また学生会員は、卒業などによって所在が不明になることが多く、把握が難しいとの意見が出た。これは指導教官を通じて確認するなどの方策を講じることになった。

会員の現況について(2005.7.27～2006.7.31)
〔総会報告参照〕

[2]各委員会活動報告

1) 学術賞選考結果審議

資料に沿って武田副会長から答申があった。質疑応答の後、答申通り、平井明夫会員に学術賞を授与することが承認された。

2) 田口賞選考結果報告

資料に沿って田上委員長から選考結果の報告があった。この件については、メールにて実施された運営委員会で既に承認済みである。

3) ROG 編集状況

奈良岡委員長から ROG 編集状況について以下の報告があった。

- ・ROG Vol.20 は、8 編、77 ページにて、2005 年 12 月 26 日に発行した。
- ・ROG Vol.21 は、6 編を受付、2006 年 10 月に発行予定である。
- ・ROG Vol.22 は、2007 年中に編集し発行する予定であり、今後も年 1 回の発行体制を維持する。

4) 記念事業の進捗状況

山本担当運営委員の代わりに奈良岡委員か

ら、資料に沿って報告があった。

ROG技術論文 マニュアル進行状況

ROGの19号に3編、20号に6編の技術論文が掲載された。21号には2編が投稿されている。計画当初にリストアップした化合物74種のうち、19種の公表が終了した。未発表の55種のうち、執筆の意思表示が明確なものが28種ある。

今後の予定としては、執筆予定者に投稿予定時期を確認し、意志が不明確なものについては、執筆予定者をML上で公募したいと考えている。この点ご審議ください。

最終成果に関しては、MSライブラリー(手作りNISTのような検索可能なもの)を作成することが可能かどうか、編集の労力と費用の点について検討中である。この点についても良いアイデアがありましたら、ご提案ください。

記念事業担当委員 山本正伸

[3])その他

1) 事務局移転の状況

事務局移転状況について事務局から報告があった。

2) 名誉会員規定の導入

福島会長から名誉会員規定の制定について相談があった。現在は、そのような規定がなく、学会に多大な貢献をされた方も退官や退職とともに退会されてしまう状況にある。規定を設けることについては、各委員の賛同が得られた。但し、資格対象者や手続き方法などの規定を作る必要がある。そこで運営委員会で今後も議論して行くことになった。

3) 会長・副会長・運営委員の交代・補充

福島会長から、以下のように会長および副会長の交代について提案があった。また村江委員の退官と武田副会長の退任にともなう運営委員の交代についても提案があった。さらに新事務局でホームページ管理などを担当する鈴木会員を運営委員とした方が良い、との提案が事務局からあり、合わせて総会に提案することを多数の賛成により承認した。

人事更新 [総会記事参照]

以上

2006年度総会記事

日時:2006年8月3日 16:00~17:00

場所:信州大学

総会では以下の事項が審議、承認された。

議事

- 議長選出
- 議事:承認事項
- 2005年度事業・会計報告
- 2006年度事業・会計中間報告
- 2007年度事業・会計計画
- 会長・副会長・運営委員の交代・補充
- 議事:報告事項
- ROG編集状況および記念事業の進捗状況
- 事務局移転と現在の体制について
- 会員の現況
- 来年度のシンポジウム開催場所
- 議長解任

- 表彰式
 - 研究奨励賞(田口賞)
 - 有機地球化学賞(学術賞)
- ポスター賞発表は懇親会にて

2005年度の事業報告(2005年1月1日~2006年1月)

- 出版: ニュースレターNo.41(2005.6.15)、No.42(2006.1.16)発行、ROG表紙の改訂、ROG Vol. 20 発行(2005.12.24)
- 会合: ROG編集委員会、30周年記念事業(地球・環境有機分子検索マニュアル作成)WG、田口賞受賞候補者選考委員会(2005.7.27; 於高知大)、学術賞受賞候補者選考委員会(2005.7.27; 於高知大)、運営委員会(2005.7.27; 於高知大)、総会(2005.7.28; 於高知大)、第23回有機地球化学シンポジウム(2005.7.28~7.29; 於高知大)

▶事務： 学術会議広報協力学術団体への登録、日本科学技術図書館へ ROG の郵送、ホームページの更新、会員管理、事務局移転準備

▶会合： 学術賞受賞候補者選考委員会 (2006.7; email にて)、運営委員会 (2006.8.2; 信州大)、総会 (2006.8.3; 信州大)、第 24 回有機地球化学シンポジウム (2006.8.3～8.4; 信州大)、ROG 編集委員会、30 周年記念事業 (地球・環境有機分子検索マニュアル作成) WG

2005 年度の会計報告 (資料 1)

▶事務： 事務局運営会議 (2006.7.14 他)、ホームページの更新、会員管理

2005 年度会計監査報告 (資料 2)

▶
2006 年度事業中間報告 下期計画 (資料 4)

2006 年度事業中間報告 上期実績 (2006 年 1 月～2006 年 6 月 30 日)

▶出版： ニュースレターNo.43 (2006.6.2) 発行

2007 年度事業計画 (2007 年 1 月 1 日～12 月 31 日)

▶会合： ROG 編集委員会、30 周年記念事業 (地球・環境有機分子検索マニュアル作成) WG、田口賞受賞候補者選考委員会 (2006.6; email にて)

▶出版： ニュースレターNo.45、No.46 発行、ROG Vol. 22 発行

▶事務： 事務局移転、事務局運営会議 (2006.6.14)、ホームページの更新、会員管理

▶会合： ROG 編集委員会、30 周年記念事業 (地球・環境有機分子検索マニュアル作成) WG、田口賞受賞候補者選考委員会、学術賞受賞候補者選考委員会、運営委員会 (金沢大)、総会 (金沢大)、第 25 回有機地球化学シンポジウム (金沢大)

2006 年度会計中間報告 上期実績 (資料 3)

▶事務： 事務局運営会議、ホームページの更新、会員管理

2006 年度事業中間報告 下期計画 (2006 年 7 月 1 日～12 月 31 日)

▶出版： ニュースレターNo.44 発行、ROG Vol. 21 発行

2007 年度会計計画 (資料 5)

(資料 1) 2005 年度の会計報告 (2005 年 1 月 1 日～2006 年 1 月)

一般会計

収入	(円)
前年度繰越金	952,033
賛助会費	120,000
個人会費	228,000
ROG販売	6,630
利子他	23
計	1,306,686

支出	(円)
ROG印刷	391,570
新会員システム関係	87,360
事務局経費	30,000
送料	44,565
雑費	4,608
手数料	1,232
次年度繰越金	747,351
計	1,306,686

田口基金

収入	(円)
前年度繰越金	1,994,195
収入	7
計	1,994,202

支出	(円)
副賞 (田口賞)	100,000
次年度繰越金	1,894,202
計	1,994,202

(資料2) 2005年度会計監査報告

会計監査報告

有機地球化学会および田口基金の2005年度会計報告を、出納簿、領収書、郵便料金受領書、その他提示された証明書類に基づいて審査した結果、それが正確に処理されていると認められましたので、ここに報告致します。

平成18年7月17日

監事

山本 修一

(資料3) 2006年度会計中間報告 上期実績

一般会計

収入	(円)	支出	(円)
前年度繰越金	747,351	送料	4,820
賛助会費	20,000	振込手数料	630
個人会費	26,000	雑費	6,562
ROG販売	2,000	残高	783,357
利子	18		
計	795,369	計	795,369

(資料4) 2006年度事業中間報告 下期計画

一般会計

収入	(円)	支出	(円)
残高	783,357	ROG印刷費	400,000
賛助会費	120,000	送料	15,000
個人会費	235,000	HPオンライン化維持費	50,000
ROG販売	2,000	シンポジウム予備費	40,000
高知シンポ世話人寄付	112,423	事務局経費	30,000
松本シンポ協賛金	40,000	雑費	10,000
利子他	1	次年度繰越金	747,781
計	1,292,781	計	1,292,781

田口基金

収入	(円)	支出	(円)
前年度繰越金	1,894,202	副賞(田口賞)	50,000
収入	5	次年度繰越金	1,844,207
計	1,894,207	計	1,894,207

(資料5) 2007年度会計計画 (2007年1月1日～12月31日)

一般会計

収入	(円)
前年度繰越金	747,781
賛助会費	120,000
個人会費	300,000
ROG販売	2,000
シンポジウム協賛金	40,000
利子他	20
計	1,209,801

支出	(円)
ROG印刷費	400,000
送料	30,000
HPオンライン化維持費	50,000
シンポジウム予備費	40,000
事務局経費	30,000
雑費	30,000
次年度繰越金	629,801
計	1,209,801

田口基金

収入	(円)
前年度繰越金	1,844,207
収入	159,338
計	2,003,545

支出	(円)
副賞(田口賞)	50,000
次年度繰越金	1,953,545
計	2,003,545

会長・副会長・運営委員の交代・補充

- ▶ 会長の交代 福島和夫 → 田上英一郎
- ▶ 副会長の交代 武田信従 → 平井明夫
- ▶ 運営委員の交代 村江達士 → 北島富美雄、
武田信従 → 早稻田周、
- ▶ 運営委員の補充 鈴木祐一郎、
- ▶ その他の運営委員(任期あと1年) 河村公隆、
鈴木德行、山本正伸、氏家良博、高田秀重、
奈良岡浩、三瓶良和、荻原成騎、金子信行、
奥井明彦(敬称略)

日本有機地球化学会組織図(資料6)

今回の総会で承認を受けた結果、現在の体制が資料6のようになった。

ROG 編集状況および記念事業の進捗状況

- ▶ ROG 編集状況: ROG Vol.20— 8編、77ページにて、2005年12月26日に発行、ROG Vol.21— 6編を受付、2006年10月に発行予定、ROG Vol.22— 2007年中に編集し発行予定(年1回の発行体制を維持)
- ▶ 記念事業の進捗状況: これまでの実績として、ROG19号に3編、20号に6編の技術論文が掲載された。今後の予定は、21号には2編が投稿されている。全体の見通しは、当初リスト化した化合物74種のうち、19種の公表が終了した。未発表の55種のうち、

執筆意思が明確なものが28種である。将来の目論見は、英語版の作成、単行本としてまとめ発行を考えている。

会員の現況(2005.7.27～2006.7.31現在)

- ▶ 入会: 8名— 正会員: 土田邦博、渡邊圭司、成田廣枝、杉山裕子、永洞真一郎(5名)、学生会員: 中村英人、塚崎あゆみ(2名)、賛助会員: ゲステル株式会社(1社)
- ▶ 退会: 4名— 正会員: 南川雅男(1名)、学生会員: イェッサリーナ・スベトラーナ(1名)、賛助会員: 横河アナリティカルシステムズ、サーモエレクトロン(2社)
- ▶ 現況: 155名(2005.7.26時点で151名)、正会員: 122名(2005.7.26時点で118名)、学生会員: 29名(2005.7.26時点で28名)、賛助会員: 4社(2005.7.26時点で5社)

研究奨励賞(田口賞)授与

受賞者: 力石 嘉人(博士(理学))、海洋研究開発機構、地球内部変動研究センター(日本学術振興会特別研究員PD)、研究題目: 植物脂質化合物の炭素-水素同位体比同時解析とその堆積物バイオマーカーへの応用

有機地球化学賞(学術賞)授与

受賞者: 平井 明夫(理学修士)、帝国石油

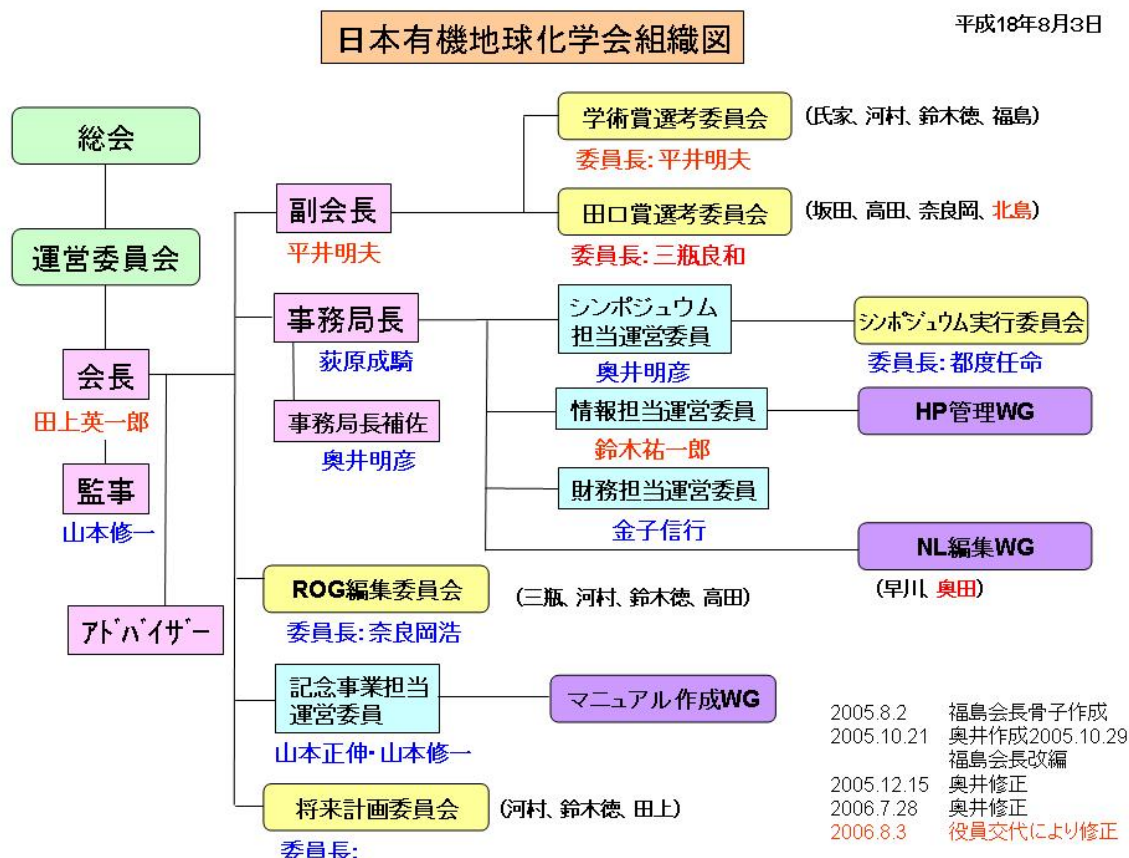
株式会社 海外・大陸棚本部技術評価部、研究題目：根源岩の熟成度評価法の確立と本邦における石油システムに関する研究

運営委員会の会場は別途
日時：シンポジウム 7/26 (木) 27 (金)、運営委員会 7/25 (水) 午後
主催者：金沢大学、大学院自然科学研究科、長谷川卓助教授

来年度のシンポジウム開催地

会場：金沢大学サテライトプラザ（旧市街）、

(資料6) 事務局移転と現在の体制について



Information

有機地球化学賞(学術賞)2007年度受賞候補者推薦の募集

有機地球化学賞(学術賞)2006年度受賞候補選考委員会 **委員長** 平井 明夫

有機地球化学賞(学術賞)受賞候補者選考規則により、同賞受賞候補者推薦を募集いたします。つきましては、下記をご参照のうえ受賞候補者をご推薦下さい。

記

候補者の資格：有機地球化学の研究分野で顕著な学術業績をあげた本会会員。

募集の方法：本会会員の推薦による（自薦他薦を問いません）。

推薦の方法：下記の事項を A4 サイズの用紙に

任意の様式で記入し、書留で郵送すること。

- 1) 候補者の履歴（学歴，大学卒から。職歴，その他）
- 2) 推薦の対象となる研究題目および推薦理由
- 3) 研究業績目録（推薦の対象となる主要な論文 10 編）
- 4) 推薦者の氏名と連絡先

締め切り日：2007年5月31日(木) (当日消印有効)

提出および問い合わせ先：〒151-8565 東京都渋谷区幡ヶ谷 1-31-10 帝国石油(株)技術評価部

平井明夫 電話：03-3466-1247,

ファクシミリ：03-3468-3509
E-mail：a_hirai@teikokuoil.co.jp

「有機地球化学賞（学術賞）の過去の受賞者についての情報は、日本有機地球学会ホームページでご覧下さい。」

研究奨励賞(田口賞)2007年度受賞候補者の募集

研究奨励賞(田口賞)2006年度受賞候補
選考委員会 委員長 三瓶 良和

研究奨励賞(田口賞)受賞候補者選考規則により、同賞受賞候補者推薦を募集いたします。つきましては、下記をご参照のうえ受賞候補者をご推薦下さい。

記

候補者の資格：生年月日が1973年4月2日以降で、有機地球化学、石油地質学、堆積学の3分野のいずれかで優れた研究を行い、将来にも研究の発展を期待できる方。本会会員に限りません。

募集の方法：本会会員の推薦による（自薦他薦を問いません）。**推薦の方法：**下記の事項をA4サイズ用紙に任意の形式で記入し、郵送またはPDFファイル等のE-mail添付送付の事。

- 1) 推薦理由及び研究題目
- 2) 研究業績目録
- 3) 研究論文の別刷り又はコピー
- 4) 推薦者の氏名と連絡先

締め切り日：2007年5月31日（木）（当日消印有効）

提出及び問い合わせ先：〒690-8504 松江市西川津町 1060 島根大学総合理工学部地球資源環境学科

三瓶 良和 電話：0852-32-6453、

ファックス：0852-32-6469、

E-mail：sampei@riko.shimane-u.ac.jp

これまでの受賞者と研究題目については <http://www.ogeochem.jp/prize1.htm#taguchisho>（日本有機地球化学会HP「学会概要」）をご覧ください。

ROGへの投稿原稿を募集中！！

Researches in Organic Geochemistry

編集委員長 奈良岡 浩

ROG (Researches in Organic Geochemistry) は本学会の学会誌で有機地球化学に関連する論文を掲載し、年1回発行しています。昨年末に Vol. 21 を発行し、現在、Vol. 22 に向けて原稿を募集中です。

学会会員の皆様に興味をもって読んでいただけるような出版物にしていきたいと思っています。

ROG の現在のカテゴリーとしては 1) 論文 (article)、2) 短報(note)、3) レター (letter)、4) 技

術論文(technical paper)、5) 総説 (review)からなり、最新結果から古くからの問題まで幅広く募集中です。

博士論文や修士論文の一部の発表も歓迎いたします。ROG Vol. 21 の巻末の投稿規定を参考にされて、ご投稿をお願いします。また、取り上げてもらいたい総説・技術論文などの要望もお寄せ下さい。

PDF ファイルによる電子投稿も受け付けており、皆さんの積極的な投稿・ご意見をお願いします。

ROG 編集長・岡山大理・奈良岡浩

ニュースレターアーカイブス

JAOGホームページ内の「学会アーカイブス」には、No. 31 以後のニュースレターが保存されております。この度、平井明夫会員のご尽力により、「学会アーカイブス」に未掲載のNo. 30 以前のニュースレターについてPDF化し、閲覧可能にして頂きました。URLは以下の通りです、ご利用ください。

<http://hirai-akio.ddo.jp/JAOGnewsletter.html> 早急に学会ホームページとリンク致します。

2007 年年会費納入のお願い

会員の皆様には日頃よりご支援いただき、誠にありがとうございます。事務局から 2007 年の年会費の納入についてご協力をお願いいたします。年会費は一般会員 2000 円学生会員 1000 円となっております。下記郵便口座までお振込みをお願いいたします。ご自分の最終納入年度がわからない等ご不明の点がございましたら、どうぞ遠慮なく事務局（財務担当：金子）までお問い合わせください。また、職場や自宅を変更された方は名簿作成と郵便物配布のために**新しいご住所、電話番号、ファックス番号**を下記までご連絡下さい。また、E-mail アドレスをお持ちの方は、ニュースレターのメール配信等のため、差し支えない限り **E-mail アドレス**を事務局までお知らせいただくようお願いいたします。

編集後記： 本号掲載の写真は、福島和夫会員、平井明夫会員、金子信行会員よりご提供いただきました。御礼申し上げます。People は今回お休みしました。皆様の寄稿をお待ちしております。

発行責任者 有機地球化学会会長 田上 英一郎
〒464-8601 名古屋市千種区不老町 名古屋大学大学院 環境学研究科
Phone: 052-789-3472, Fax: 052-789-3436
日本有機地球化学会事務局（2006 年 1 月 1 日より移転しました）
〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1 東京大学大学院 理学系研究科
地球惑星 1 号館
Phone: 03-5841-4524 fax: 03-5841-4555
e-mail: secre06@ogeochem.jp
郵便口座 00110-7-76406（名義人 日本有機地球化学会）
編集者 早川和秀（滋賀県琵琶湖・環境科学研究センター）

有機地球化学会ニュースレターはホームページでもご覧になれます。
アドレス：<http://www.ogeochem.jp/>